

学士力について ①（学士課程答申）

■ 平成20年「学士課程教育の構築に向けて（答申）」

学士力 とは、学士課程を通じて学生が共通して身に付けることが期待される資質・能力であり、分野横断的に4分野13項目から構成

▼答申で示された参考指針（各専攻分野を通じて培う学士力 ～ 学士課程共通の学習成果に関する参考指針 ～）

4分野	13項目
1. 知識・理解	● 専攻分野の基本的な知識を体系的に理解するとともに、歴史・社会・自然と関連づけて理解する力 ● 多文化・異分野理解、人類の文化や社会・自然に関する幅広い知識
2. 汎用的技能	● コミュニケーション・スキル（日本語と外国語による読み・書き・聞き・話す能力） ● 数量的スキル（数的・論理的分析力） ● 情報リテラシー（ICTを用いた情報収集・分析・活用） ● 論理的思考力 ● 問題解決力
3. 態度・志向性	● 自己管理能力 ● チームワーク、リーダーシップ ● 倫理観 ● 市民としての社会的責任 ● 生涯学習力
4. 統合的な学習経験と創造的思考力	● 獲得した知識・技能・態度を総合的に活用し、新たな課題を設定・解決する能力



学士力は、単なる専門知識だけでなく、幅広い教養・汎用的スキル・主体的態度・課題解決力を含む「21世紀型市民」にふさわしい学修成果を指す

学士力について ②（グランドデザイン答申・教学マネジメント指針）

■ 平成30年「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」

学士課程答申における「学士力」についてまとめ、今後の情報を基盤とした社会の到来も見据え、**予測不可能な時代を生きる人材像**として、以下 2 点を提示

- 普遍的な知識・理解と汎用的技能を文理横断的に身に付けていく
- 時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、論理的思考力を持って社会を改善していく資質を有する人材

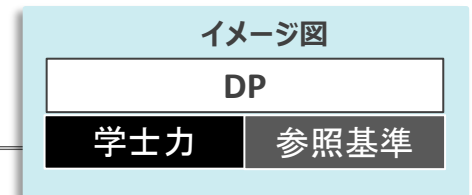


「何を学び、身に付けることができるのか」を中核に据えた
学修者本位の教育への転換

■ 令和 2 年「教学マネジメント指針」

「卒業認定・学位授与の方針（DP）」を策定する際の留意事項

- 「何ができるようになるか」に力点を置き、どのような学修成果を上げれば卒業を認定し、学位を授与するのかという方針をできるだけ具体的に示す
- その際、学士課程答申で示された「参考指針」を踏まえるとともに、日本学術会議の「分野別参照基準」等も参考とすることが考えられる



「学士力」と「参照基準」を踏まえ、DPを策定

学士力について ③（知の総和答申）

■ 令和7年「我が国の「知の総和」向上の未来像 ～高等教育システムの再構築～（答申）」

目指す未来像の実現のためには、「**知の総和**」（**数 × 能力**）を向上することが必須

学士課程で育成・可視化すべき資質・能力 = 「**学士力**」に相当

特に「**質**」の向上を「**学生一人一人の能力を最大限高めること**」と定義し、**学士力の実質化を目指す**

学士力をどう高め・保証するか

- ✓ 「学士力」の保証と向上のために、「**出口における質保証**」を強調（厳格な成績評価・卒業認定等）
- +
- ✓ 教育の質を数段階で評価する新たな評価制度への移行（認証評価制度の見直し）

DPの見直し、再検証

【参考】「学士力」と「社会人基礎力」、「育成すべき資質・能力の三つの柱」

学士力

平成20年「学士課程教育の構築に向けて（答申）」

4分野	13項目
1. 知識・理解	● 専攻分野の基本的な知識を体系的に理解するとともに、歴史・社会・自然と関連づけて理解する力 ● 多文化・異分野理解、人類の文化や社会・自然に関する幅広い知識
2. 汎用的技能	● コミュニケーション・スキル（日本語と外国語による読み・書き・聞き・話す能力） ● 数量的スキル（数的・論理的的分析力） ● 情報リテラシー（ICTを用いた情報収集・分析・活用） ● 論理的思考力 ● 問題解決力
3. 態度・志向性	● 自己管理能力 ● チームワーク、リーダーシップ ● 倫理観 ● 市民としての社会的責任 ● 生涯学習力
4. 統合的な学習経験と創造的思考力	● 獲得した知識・技能・態度を総合的に活用し、新たな課題を設定・解決する能力

社会人基礎力

平成18年 経済産業省

【定義】職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力

3つの能力	12の能力要素
1. 前に踏み出す力（アクション）	主体性、働きかけ力、実行力
2. 考え抜く力（シンキング）	課題発見力、計画力、創造力
3. チームで働く力（チームワーク）	発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力

育成すべき資質・能力の三つの柱

平成28年「幼・小・中・高・特支の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」

三つの柱	要素
1. 知識・技能	何を理解しているか／何ができるか
2. 思考力・判断力・表現力 等	理解していること・できることをどう使うか
3. 学びに向かう力・人間性 等	どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか

✓ 平成30年に「人生100年時代の社会人基礎力」にアップデート
新たに「ライフステージの各段階で活躍し続けるために求められる力」と定義

✓ 「社会人基礎力」の3つの能力/12の能力要素を内容としつつ、能力を発揮するにあたって、自己を認識してリフレクション（振り返り）しながら、
3つの視点（目的/どう活躍するか、学び/何を学ぶか、統合/どのように学ぶか）のバランスを図ることが、自らのキャリアを切りひらいていく上で必要と位置づけ